

白銀公園

白銀公園は銀山温泉へと続いており、かつてはその生命線だった鉱山跡へもつながっています。白銀公園には、銀山周辺の山林を通る環状のなだらかな歩道があります。この歩道は、自然や歴史に関するいくつかの見どころを通っていきます。

白銀公園の入口は、銀山の町の南側にあります。入口の近くには、水で満たされた小さな洞窟があります。これは鉱山の排水に使われたもので、この地域のかつての姿を垣間見させてくれます。歩道は、そこから白銀の滝を通して洗心峡へと続いています。白銀の滝は、滝つぼまで落差 22 メートルもある滝です。

歩道は、洗心峡を縫って続く銀山川を渡ります。銀山川には、朱色の「せことい橋」と、古風な石橋「河鹿橋」がかかっています。散策する人の多くは、途中の夏しらず坑で休憩します。夏しらず坑は、山の奥深くへとつながる古い坑道です。その入口からは、自然の涼しい地下の空気が流れてきます。

白銀公園の歩道は、「おもかげ園」へと続いています。「おもかげ園」は小さな花園で、色鮮やかな鯉がたくさんいる池があります。「おもかげ園」を過ぎると、延沢銀山の坑口があります。銀山の山々には、かつてこのような坑道が 53 ありましたが、現在も公開されているのは延沢銀山のみです。坑道の中へ入ると、100 年も昔の鉱山労働者の労働環境を垣間見ることができます。この長さ 20 メートルの坑道は、「焼き掘り」工法によって黒ずんだ壁がある石室を通っていきます。

白銀公園の歩道を登っていった一番高いところにあるのは、儀賀市郎左衛門（生没年不詳）の像がある小さな広場です。儀賀は、この銀山で銀を見つけたと信じられている、半ば伝説上の人物です。下りの道は、洗心峡の反対側の岸に沿っています。山の神をまつる小さな木造の神社と、「白銀の滝」の神をまつる神社を過ぎて、町に戻ってきます。

白銀公園の歩道の全長は 4 キロメートル近くあり、所要時間は約 80 分かかります。また、長さ 2 キロメートルと 0.8 キロメートルのコースもあり、それぞれ約 40 分と 20 分で回ることができます。白銀公園での散策で有名なのは、秋の紅葉です。白銀公園の歩道は、降雪が多いため冬には閉鎖されます。